

パリのお嬢さん

澤 功（澤の屋旅館主人）

※この記事は日観連機関誌の2006年10月号に掲載されました。

チェックインして宿帳を書き終えたフランスの女性が、にこにこしながら「私は昨年八月、澤の屋に二週間滞在しました」と言います。

前に泊ったと言われると、私はいつも「アイアム、グラッド、トウ、シー、ユー、アゲイン（またお会いできてうれしいです）」と言います。そう答えたのですがなかなか昨年のことが思い出せません。

「毎日Tシャツを着て、バンドナをして、鼻にピアスをつけていたでしょう」と言われて、やっと思い出しました。あの時の学生さんが綺麗なお嬢さんになってまた来てくれたのです。

名前はエステルさん。前回は大学に合格したご褒美に、両親が一月の日本旅行を許してくれたのだそうです。

建築家希望で東京の近代的な建築と古い建物を毎日見に行っていました。朝はゆっくり起きてきて、食堂で食事をしながら、泊りのお客様と楽しそうに話をしていました。

その時、雑誌の取材を受けたことを思い出し、それを見るとエステルさんの写真とコメントが載っていました。「私の友人が澤の屋を推薦してくれたのですが、家族的でキュートなので気に入っています。澤さんはとても親切でまるでお父さんみたい。サロンでは、いろいろな国から来た人たちとおしゃべりできるのも楽しいですね」とあります。

今回のエステルさんの滞在は八月二十四日から八日間で、丁度この間に地元の夏祭があります。これを楽しんで貰おうと思いました。

この祭は諏訪神社の夏祭りで、今年は八月二十五日から三日間、町会でいろいろな催しがあります。町会は真島町会といって世帯数四三二、人口一、四〇〇人で小さいのですが良くまとまっています。一日目の夜は盆踊り、二日目の土曜日は、昼に坂道を利用しての大流しソーメン大会、夜は芸能大会。三日目の日曜日は、昼は町内御輿と太鼓巡行で、夜は盆踊りです。それに町会のお母さん達と小中学生の娘さん達を中心になって、毎晩模擬店が開かれます。

町内の神酒所は澤の屋のはす向かいの夜警小屋に設置されます。十年ほど前から町会の副会長の私は祭の会計責任者です。奉納金の管理ですから神酒所が開いている間はそこに詰めています。夜は夜で盆踊りですから、祭りの間、旅館の仕事は出来ません。毎年祭りになると家内に「お父さんをあてにはしていませんよ」と言われま

す。盆踊りは澤の屋の横の道路を交通止めにしてヤグラを組みます。その横に模擬店が並び、焼そば二〇〇円、フランク一五〇円、かき氷一〇〇円、チューハイ二五〇円

など盛りだくさんですから大好評です。

毎年、泊りの外国のお客様も祭りでは御輿をかつがせてもらったり、盆踊りの輪に入ったり、模擬店の料理と飲物でご近所の人との話が弾んだりしています。

盆踊りでは、近所に住む桐谷逸夫、エリザベス夫妻に毎年誘われますが、いつも踊れないので、今年は意を決して踊りの練習に出席して「炭坑節」だけ踊れるようになりました。

日曜日の夜、桐谷夫妻から一緒に踊りましょうと言われていたので、エステルさんを誘ってあげることにしました。家内がお嬢さんの浴衣を着せてあげるとピッタリでよく似合います。桐谷さんたちと盆踊りの輪に加わってエステルさんは、踊りの先生の後ろについて踊りはじめましたが、すぐに覚えて様になっています。

踊ったり、模擬店で食べたり飲んだり、その間にエステルさんは英語を習い始めた女子中学生とおしゃべりです。楽しい時間が過ぎて祭りは終わりました。

息子がエステルさんの浴衣姿を、澤の屋のホームページのサンクスホトグラフに載せました。家内が踊っている写真を撮ってあげて、私は澤の屋の英語の本をあげました。本にサインと思って名前を書いてもらうと「マドモアゼル・エステル・デゴイス」と書きます。ああエステルさんは「パリのお嬢さん」なのだと思います。

「この次は、家族と一緒に来ます」と言って、大阪の友達の所に旅立って行きました。再会が楽しみです。